

2022年11月

第146号

# ぱれっと



(株)北日本ベストサポート  
Tel. 018-883-1888

## 円安と物価高

「円安」に歯止めがかからない。10月20日には150円台に円安が進み1990年以来32年ぶりの水準となった。10月15日、米国のバイデン大統領が「ドル高を懸念していない」と述べ、日銀の黒田総裁も国会で「金融緩和は適当」と答弁するなど、日銀がときおり為替介入に踏み切ってもその効果は限定的なものになっている。

1989年12月29日には日経平均株価が38,915円と過去最高値を付け消費税導入やキャピタルゲイン課税開始、土地基本法が成立するなど過熱気味の経済抑制策がとられ、翌年には長期金利が急上昇、株価が大暴落(10月1日には20,221円まで下落)・不動産価格の下落など「トリプル安」と言われる時代を経験した。

第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、日本国中が貧困にあえぎ、また、米国の日本統治の基本政策も日本が再度戦争を引き起こすことができない三等国以上に国力を向上させない政策がとられた。それでも日本国民は必死になって生活の維持、国力向上のため懸命に努力を重ね勤勉に働いた。朝鮮戦争を契機として米国は日本を戦争の物資補給の基地として活用し、日本も工業生産力など飛躍的に向上し、経済急成長のきっかけとなった。

日本は資源に乏しく、産業物資を外国からの輸入に依存し、産業技術力で劣勢をカバーし世界第2位のGDPを確保するまでに経済力が向上した。1979年には米国の社会学者エズラ・ボージェルが「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という本を出版し、日本的経済をつくり出している日本人特有の経済や社会制度を高く評価し、日本国内でも日本経済の黄金期として発展した。しかし、1980年以降の安定成長期・ハイテク景気を経てバブル景気となり失われた30年と言われる時代へと移行した。

今回の急減な円安の起点は今年2月24日、ロシアがウクライナへ侵攻したことに始まる。制裁と報復の中心を担う米国とロシア、いずれの国も「エネルギー」と「食糧」という二大必需品が生産過剰となっている。これに対して日本はいずれの資源にも乏しい、輸入に依存しなければ産業も生活も成り立たない。それに追い討ちをかけるように米国(ドル)との金利差が円安に拍車をかけている。そのため外国に依存している食料やエネルギーは軒並み高騰し生活を脅かす状況となっている。外国人労働者も実質賃金が下落し、台湾、韓国、東南アジアへ移転する動きとなっている。

私たちはこれまでの生活様式、社会保障・税金・国債のあり方等、決定的に乏しい資源の日本をもう一度見つめ直し、今後の日本の将来についてゼロベースで考える機会が与えられたと自覚し、日本の再構築を図っていききたいものだ。



## 人間圧がリーダーの条件

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

### 「経営のベースは人間の基本論理」

経済合理性、資本の論理は、いうまでもなく大事である。

しかし、そのベースには人間の論理がある。それは高邁な常識であり、ボンサンスといわれる倫理観であり、モラルであり、友情であり、誠意であり、善意である。

優れた会社の行動をずっと観ていると、グッド ビヘイビアである。人を欺くことをしない。環境への気遣いがある。社員に対してどこからつかれても問題がない。公明正大にやっている。

情報を取るための経費も必要があればどんどん使う。そしてコスト意識も持っている。わたしはそうした経費について、自在にゆるめたり、あるいは緊縮させたりすることが企業活性化の条件だと思っている。

いい仕事をしているマネージャーにはゆったりしている器を感じる。

スケールが大きい。

緻密にものごとを考える。

思索がある。

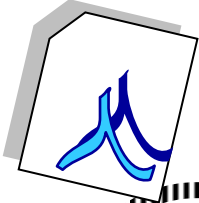
マメで几帳面で誠実である。

すべて当たり前の人々のモラルが企業のモラルをつくり、それが成長の方程式をつくっているように思われる。

会社はディープ(深く)で、コンティニューアス(尽きない)で、インティマシー(親密)で、アプリシエイト(大感謝)しつづける相互の関係を着実に築いて行きたいものである。

日本の企業も改めてパーソナルな、人間的な、より突っ込んだ勉強をして、それを実践する時代に入ったと思う。

【「人を惹きつける経営」より】



## 海音寺 潮五郎 (日本の小説家・作家)

- 1901年11月5日(明治34年) 鹿児島県伊佐郡大口村の山師の家に誕生。  
本名末富東作。
- 1907年(明治40年) 大口尋常高等小学校に入学。教科書以外の本を読むことを禁じられており、講談本など屋根に上って読み、評判となる。
- 1921年(大正10年) 伊勢神宮皇学館入学。
- 1923年(大正12年) 上京し、国学院大学高等師範部に入学。
- 1926年(大正15年) 國學院大學卒業、鹿児島指宿中学校国漢教師となる。
- 1929年(昭和4年) 「サンデー毎日」の懸賞小説「うたかた草子」で当選。ペンネーム海音寺潮五郎を名乗る。
- 1934年(昭和9年) サンデー毎日大衆文芸賞受賞。教師退職。専業作家となる。鎌倉に住まいする。
- 1936年(昭和11年) 「天正女合戦」と「武道伝来記」で直木賞受賞。
- 1959年(昭和34年) 「武将列伝」を「オール読物」に連載開始。
- 1968年(昭和43年) 第16回菊池寛賞受賞。紫綬褒章受章。
- 1973年(昭和48年) 文化功労者に選出される。歴史文学の発展、史伝の復活に貢献したことが評価される。
- 1977年12月1日(昭和52年) 脳溢血で倒れ、心筋梗塞を併発し、栃木県内の病院で逝去。享年76歳。

### オススメの *BOOK*



#### 「瓢箪から人生」

作者 夏井 いつき 出版社 小学館

作者は、愛媛県生まれ元中学校の国語教師。途中退職して俳人へ転身。

現在テレビ・ラジオ・講演等俳句の底辺拡大をめざし活躍中。松山市在住で俳句集団「いつき組」組長を名乗っている。本書はそうした俳句を広める活動の中で、出会った人々、出来事をまとめたエッセー集である。

振り返ってみれば、なんと幸福な出会いであったか、「これだけはどうしても書いておきたかった」思いもよらない人生の悲喜交々。俳句の日々を綴ったもの。小学生から老人まで微笑ましい俳句が沢山登場する。俳句はよく解らないまでも人との出会いや思い出の楽しさがよく伝わって来る。

## 薄暮時間帯の運転

日没前後の時間帯は薄暮時間帯と言われ、交通事故のリスクが高まる時間帯です。

特に11月～12月は、薄暮時間帯と多くの人の帰社時間や帰宅時間が重なり、交通事故のリスクもさらに高まるため、自動車の運転にはより一層の注意が必要です。

この時間帯の交通事故を防ぐため、薄暮時間帯のリスクとドライバーの注意点をご紹介します。

### ★薄暮時間帯のリスク

薄暮時間帯は交通量が増す分、昼間よりリスクが高くなります。運転するには以下のような点に注意が必要です。

- (1) 交通ルールを守らない歩行者等の増加  
帰宅ラッシュ等での交通量の増加に伴い、信号無視、横断歩道付近の横断、ながらスマホ、無灯火自転車などと遭遇するかもしれません。
- (2) 歩行者や自転車に気づきにくくなる  
薄暮では周囲のコントラストがなくなり、景色全体が暗くなるため視力が低下します。
- (3) 一日の疲れ・油断からの漫然運転  
薄暮時間帯は一日の疲れがでたり、油断が生じやすくなります。



### ★運転の注意点

#### (1) 横断歩道に関するルールの遵守

横断歩道に歩行者がいる場合は、横断歩道の直前で一時停止し、その通行を妨げないようにしましょう。

#### (2) 早めのヘッドライト点灯

視界を確保するため、また、他の車や歩行者に自分の車の存在を知らせるために、早めに点灯しましょう。暗い道を走行する際は、ハイビームを上手に使って歩行者等の早期発見に努めましょう。

#### (3) 危険を予測した慎重な運転

「見えにくいところに歩行者や自転車が隠れているかもしれない」「自動車が気づかず歩行者や自転車が突然横断してくるかもしれない」といった危険を予測して、慎重に運転しましょう。

### 【編集後記】

10月16日からお隣の中国では、第20回中国共産党大会が開幕された。

習近平総書記・国家主席は施政方針演説の中で、2期目の実績を誇示した上で台湾統一を目標に掲げ「武力行使の放棄は約束しない」と明言した。なんともやりきれない発言である。ウクライナでロシアの侵略戦争が続いているさなかに、物騒な発言が飛び出し平和を願う日本国民にとってやりきれない思いがする。その火種が津波のように押し寄せてこないように話し合いを大切にしたい外交を期待したい。